

第107回全国高校野球選手権青森大会



リラックスした表情で練習する八学光星ナイン=18日、同校グラウンド

打撃自慢 8強激突



第107回全国高校野球選手権青森大会は19、20日、青森県営球場で準々決勝計4試合が行われる。阪神甲子園球場で行われる全国大会(8月5、22日)の出場を懸けた戦いはいよいよ後半戦へと突入。8強入りした各チームはいずれも打撃力が高く、壮絶な打ち合いも予想される。準々決勝進出を決めたのは

高校野球青森大会 きょうから準々決勝

春季県王者の青森山田、東北地区大会準優勝の八学光星、シード校の青森北、弘学聖愛、工大に加え、東義、1回戦から勝ち上がった弘前南、木造。地区別では、弘前が最多の3チームで、八戸2チーム、青森2チーム、五所川原1チームとなっている。

19日の第1試合は「青森山田―弘前南。総合力が高い青森山田が優位か。3回戦では難敵・弘前東との接戦を制し、勝負強さにも磨きがかかった。粘り強さで3チームを撃破した弘前南は、王者相手から金星を挙げられるか。」

第2試合は「木造―八学光星。八学光星は安定した戦いぶり。打撃は勢いが増しており、ビッグイニングをつかんで一気に勝負を決めたい。14年ぶり準々決勝に進出した木造は打撃をつないで勝利を目指す。」

20日の第1試合は「青森北―東義」。春季県3位の「公立の雄」青森北は、三沢との3回戦で自慢の打撃力が爆発。対する東義が、どこまで封じ込めるかが、試合のポイントとなりそうだ。

第2試合の「工大―弘学聖愛」は、準々決勝屈指の好カード。工大―は投手陣が好調で、ここまで無失点を継続。調子を上げる打撃も大きな武器だ。弘学聖愛は安打こそ少ないものの、機動力を行かした攻撃で揺さぶりをかける。

八学光星は18日、八戸市の同校グラウンドと室内練習場で軽めの調整を行い、終了後に戦いの舞台となる青森市へ移動。山上春人主将は「自分たちがやっできた野球をしつかりできれば結果は必ず出る。一戦必勝で臨みたい」と意気込む。

きょうの試合

▽準々決勝
【青森県営】
青森山田―弘前南 10・00
木造―八学光星 12・30